

戦跡めぐり in Chita



太平洋戦争中、戦争と生活は常にとりあわせでした。今年、知多半島の軍用機製造工場跡や特攻基地などをめぐり、戦争が人々の暮らしに及ぼした影響について考えます。あなたもバスツアーに参加しませんか。

●南知多町の軍人像群

名古屋市千種区月が丘苑より1995年11月に移転されたもの。この軍人像は1937年12月13日、上海上陸作戦における敵前上陸で戦死された名古屋第3師団歩兵第6連隊の戦没者たちである。遺族が浅野祥雲に依頼して製作された。



●片名特攻基地地下壕

第4特攻船体第13突撃隊第6震洋隊が配属される予定だった。「震洋」格納庫は3箇所つくられ、現在は1か所新師崎バス停前に残っている。



●赤レンガ建物弾痕壁

カブトビールの赤レンガ建物は、中島飛行機半田製作所の衣料倉庫として利用されていた。1945年7月15日の空襲で米軍P51戦闘機の機銃掃射にあい、100発以上被弾した。



9月19日(木)



知多半島の戦争の歴史バスツアー

●午前 9:45 集合・出発 ●料金/4,000円(昼食付き)
持ち物：動きやすい服装、水分補給できるもの、筆記用具

問い合わせ先：(052)914-4554 (中根)

教えてください あなたの 戦争体験



「いのちの殺し合い。尊いのちの殺し合いは絶対にしてはいけない」

～憲法9条は変えてはいけない～ 川崎 嘉子さん

組合員の川崎嘉子さんに戦時中のお話を伺いました

1945年は、岐阜市柳ヶ瀬に住んでいました。当時女学生で13歳、学徒動員で軍需工場へ行っていました。

当時印象に残っていることがあれば教えてください

軍需工場への行き帰りには、艦載機(空母から飛び立つ飛行機)で狙わ

れていました。パイロットの顔が見えるほど近くから、動くものがあれば犬でもなんでも打たれていました。

1945年7月9日の深夜、岐阜市は空襲(絨毯爆撃)を受けました。焼夷弾が落とされる前の、照明弾はあたりをまるで昼間のように変え、逃げ惑う住民が空から見える状況でした。

その時のご様子は？

生後3日の弟と母を助けながら、妹弟をつれ逃げました。逃げ遅れた

ために町内で掘った防空壕には間に合わず、明るいとこを避けるように山沿いの溝に隠れました。すでに、その溝にも多くの人々が逃げ込んでおり、持ってきた布団をかぶり一晩過ごしました。翌朝、自宅のある街を目指すとアスファルトが熱く町に入れません。ようやく昼すぎに町へ入ると街は焼け野原となり道端には、犬や馬、逃げ遅れた人が真っ黒な姿で亡くなっていました。町内

の防空壕も残らず焼けてしまい、知人や友人も多く亡くなりました。

川崎さんが戦争体験を語られるようになった動機はありますか？

3年前戦争法(安全保障法制)が通ってからの事で、「9条だけは変えてはいけない。今話さないといけない」との思いからです。いのちの殺し合い。尊いのちの殺し合いは絶対してはいけない。